

text: Kenji NAKAMOTO (中本健二)
 photo: Kazuhisa SAWADA (澤田和久)



EVENT DATA
 ジャンル:公道ラリー
 エントリー車両:2000年までに生産されたスポーツカー
 開催日:2014年12月6日-日
 開催地:愛知県 伊勢志摩地方を中心とする三重県中南部
 ■問い合わせ:ヒストリックカーミーティング実行委員会
 URL:http://historiccarmeeting.com//

Report Memo
 "極上の車旅"をテーマに掲げる公道ラリーで、PC競技とともに開催場所ならではの特産品を堪能でき、さらに観光ポイントを巡るルートが盛り込まれていることが特徴で、開催10回目を迎えている。今回はヘリコプターの体験試乗や真珠のアクセサリー作りが特別企画として用意された。

には、志摩地中海村でのティータイムやホテルでのコースランチなど、競技で熱くなる時間と観光を楽しむ時間のバランスが絶妙で、夫婦や初参加のエントリーも多い。

回を重ねるごとに全国から参加者を集め、毎回定員を超えるほどの申し込みがあり、成功を収めているイベントだが主催者の天野氏は「2015年はゼロリセットで頑張りたいと思います」と抱負を語り、留まることなく前進し続けること約束している。2015年のスケジュールは1日～3日まで構想されているというから、今から開催が楽しみだ。

節目に相応しいスペシャルコンテンツでお出迎え

ラリーの競技性に加えて、参加者を楽しませるコンテンツを盛り込み、に伊勢・志摩を舞台に開催されたのが「ヒストリックカーミーティング」だ。2010年7月にラゲーナ蒲郡での初開催以来、今回で10回目の開催を迎えた。主催者の天野氏より前回大会終了時に「10回という記念イベントに相応しいコンテンツを盛り込みますので、エントリーはお早めに」という

言葉通り、シークレットイベントとしてヘリコプターによる遊覧飛行、さらにアコヤガイから真珠を取り出してオリジナルアクセサリーを作るなど、想像を越えるものが用意されていた。

もちろん競技の面も抜きならず、初日は13、2日目は6つのPC競技と併せて伊勢志摩スカイラインを貸し切ってシークレットPCが行われている。競技の合間

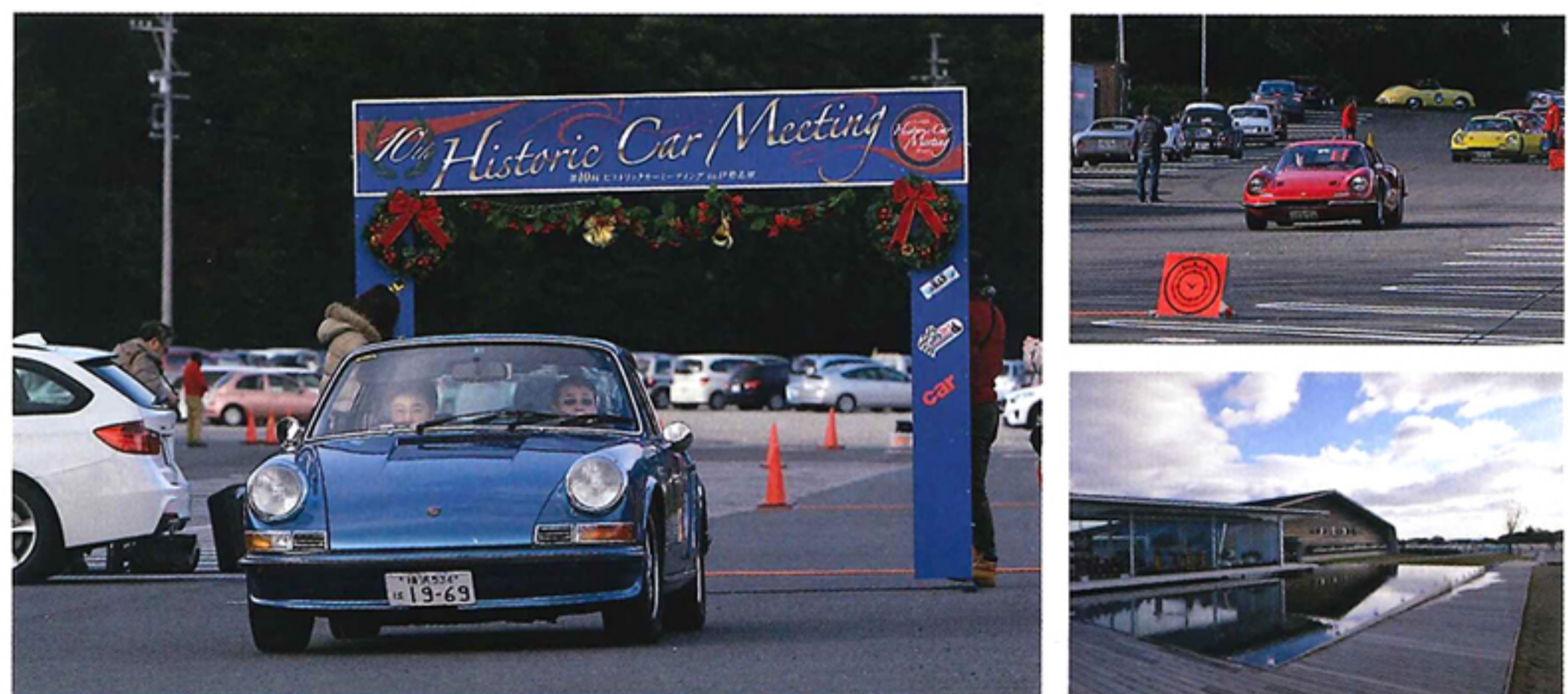
Day1

イベント1日目はアクアイグニス～パールロードやワインディングを抜けて、道の駅伊長島マンボウ～賢浦漁港～南伊勢町民文化会館～志摩地中海村～ホテル・アクアヴィラを目指す約200kmの行程だ。途中にはPC競技が13ヶ所用意されていた。

9:00 スタート

スタートゲートが第1PC競技のゴールとなっており、1分ごとに約50台の車両が出発していく。2日間にわたるツアーの始まりだ。

スタート会場となったアクアイグニスにてドライバーズミーティングを終えた参加者は、クルマへ乗り込みスタートの待を待つ。スタートゲートまでは、60m11秒、70m13秒、40m8秒のPC競技区間となっていた。



10:30 道の駅マンボウ

東名阪自動車道、伊勢道、紀勢道を通り約100km走ったところで、第2PC会場の道の駅伊長島マンボウに到着。またここはスタンプポイントにも設定されていた。



60m11秒、30m8秒、40m10秒のPC競技へ挑むエントリードライバー。競技に熱中するのはもちろんだが、移動区間には絶景のロケーションが用意されており、英虞湾を望みながら快晴の下ドライブも楽しめた。

11:30 ランチ&P.C.

賢浦漁港で海の幸を堪能した後は、PC競技に挑戦だ。余裕を持ったCOが設定されていたため、スタートの時間まで東の間の休息となった。

旬のカキや人気のマグロ丼など、海の幸がふんだんに使われた昼食でお腹を満たしたエントリーは、南伊勢町の人たちの歓声を浴びながら40m10秒、30m7秒、20m5秒の3連続PC競技へ。同漁港を会場に、数回イベントを行っているため、多くの見学者があり人気となっていた。



14:30 地中海村

レストポイントの地中海村では、しばし競技を離れて子供たちのパフォーマンスを楽しむ。12月の開催に合わせて衣装はサンタ風だった。



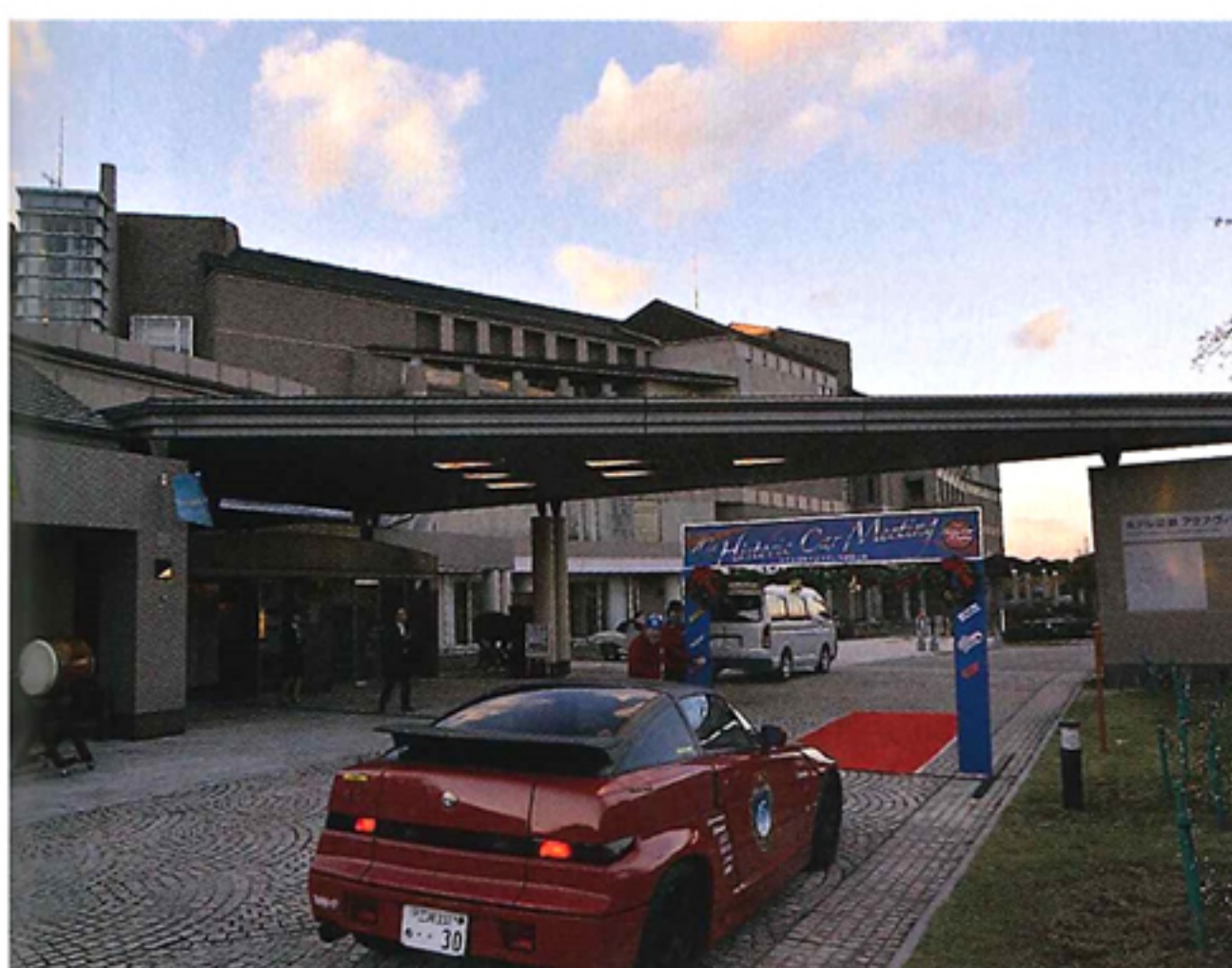
地中海村でのんびりティータイムを過ごした後は、早速PC競技がスタートする。ここでは、65m12秒、55m10秒、70m12秒、50m9秒の4連続だ。アストンマーティン・ヴァンキッシュで参加の平野さん&貝塚さん組はSクラスで見事優勝を飾っている。

15:15 シークレットポイント

第10回の開催を前に「記念大会に相応しいサプライズを用意します」という主催者天野さんのアナウンスを裏切らないスペシャルステージ。



なんとヘリコプターに乗って空の旅を楽しむというシークレットイベントが用意されていた。会場に着いた参加者の表情は驚きそのもの。これまではフェリーを使って海上移動を組み込んでいたこのイベント、次なる手は空だった。こういった主催者の創意工夫が、毎回参加している参加者を飽きさせず、よりのイベントにのめり込むきっかけとなっているのは間違いない。



16:30 ゴール

陽が傾き始めた16:30、1日目のゴール会場へ次々と参加車両が到着する。この後は夜のメインイベント、ディナーパーティーだ。

19:00 パーティ

昼の競技中だけでなく、ディナーパーティーにも様々なコンテンツが盛り込まれていて飽きさせることはない。あっという間に1日目終了。



早餅つき保存会の実演や、三味線の演奏、さらに志摩市のお祭りの定番「じゃこっぺ踊り」を全員で踊って楽しむ。その他にもフルオーケストラの演奏もあるなどコンテンツの振り幅は実に広い。

12:45 南伊勢町文化会館

スタンプポイントとなった南伊勢町民文化会館では、たいみーやティーナなどゆるキャラたちがお出迎え。特産のミカンも配られた。

スーパーカーをバックにゆるキャラと記念撮影する子供たちの姿が多く見られた。大人たちも、つぎつぎと登場するヒストリックカーに、カメラを向けて記念撮影を行う。参加者と見学者が一掃になって楽しめることもこのイベントの大きな特徴だ。



14:45 シーサイド

伊勢、志摩の入り組んだ湾を眺めながら走行を続けるエントリードライバー。ボルシェ904GTSといった稀少なモデルもラリーを楽しむ。



Day2

ドライバーズミーティングの後、2日目はアクアヴィラ伊勢志摩～御座白浜～阿児アリーナ～タラサ志摩～伊勢志摩スカイライン～ゴールの津カントリークラブを目指す約150kmの行程だ。6つのPCに加えて、伊勢志摩スカイラインではシークレット連続PC競技が用意されている。



8:20 PC

スタート会場から500mほど走るとすぐにPC会場となる。ここは、50m10秒、40m8秒、60m9秒、60m10秒の4連続だ。



パイロンで仕切られたPCコースをテンポよくクリアしていくボルシェ911Eと911RS。このほかにも356が6台など最多のエントリー台数を誇るメイクスはボルシェだった。

10:00 パールロード

パールロードを走るエルパークウエで参加の安藤さんペア。総合優勝3回を誇るベテラン参加者で、今回は章典外での参加となった。



10:30 阿児アリーナ

阿児アリーナの会場では多くの観衆へ、40m10秒、30m8秒の2連続PCの走行を披露した。直角に曲がるコース設定のためベース配分が難しい。



ライトグリーンが美しいASA100GTがPC競技をスタート。会場では、地元の愛好家メンバーによる和太鼓の演奏で参加者を出迎え、さらに特産品のあお汁、押し寿司が振る舞われた。

8:15 スタート

アクアヴィラのスタッフに見送られてスタートを切る参加者。2日とも晴天に恵まれ絶好のイベント日和となった。

スタートゲートがCO(指定時刻)スタートとなり、30秒ごとに各車スタートを切っていく。ホテルの宿泊客も、連なってスタートを切るヒストリックカーの隊列に視線が釘付けになっていた。



9:00 シークレット

スタンプポイントの海女小屋職人では、10回開催の記念に、参加者全員が天然真珠で一点もののアクセサリ作りを楽しんだ。



真珠のアクセサリ作りだけでなく現役海女さんが獲ったばかりの海の幸も振る舞われた。また、抽選で活伊勢海老や特産品の青さなどがプレゼントされている。

11:30 タラサ志摩

このイベントでなみなならぬこだわりを持つのが食事。2日目のランチは、タラサ志摩にて着席によるコース料理を楽しむ。

タラサ志摩のエンタランス広場に整然と並べられた参加車両たち。見学者を楽しませる演出もこのイベントの特徴だ。ゆっくりとコースランチを味わった後は、伊勢志摩スカイラインを目指す。



13:30 伊勢志摩スカイライン

ドライブスポットとして人気の高い伊勢志摩スカイラインの入り口へ集う参加車両。ここでは走行距離が発表されないシークレットPCが行われる。

走行はなんとクローズで行われる。走行距離は発表されないが、A-B区間を46km/h、B-ゴールまでは52km/hといったアペレージスピードが設定されている。文字で見ると簡単そうだが、アップダウンが激しく、コーナーが連続するため、ターゲットアペレージで走るにはドライバーとコドライバーの協力が必要となる。



13:50 朝熊山頂展望台

スカイラインを登りきった先にある朝熊山の展望台がスタンプポイントに設定されていた。スタンプと併せて金平糖も配られた。



14:10 伊勢かまぼこ

地元青年部の協力により、揚げたてかまぼこも振る舞われた。ランチタイム以外にも地元の名物に舌鼓を打つ。



15:30 ゴール

約150kmを走破し、津カントリークラブにてゴール。チェックアップラッグで迎えられるのは、フェラーリ250GTEだ。

2日間で約350kmを走り切った参加者たち。PCやシークレットPCなどの競技に加えて、第10回大会に相応しくヒーコプ体験試乗や真珠のアクセサリ作りなどのコンテンツで大いに満足のイベントとなった。イベント終了後には、クルマのセッケン#がデザインされたワインが参加者全員にプレゼントされている。



Car Mag's Pick Up

念願の初優勝



ジャガーSS100で参加の吉田松男さん&久美子さんペアがBクラスでの優勝に加えて、総合優勝も獲得。伊勢志摩スカイラインのシークレットPCで大量得点を獲得し驚異の追い上げに成功した。「このイベントでラリーの楽しみ方を覚えたい」とのことだった。

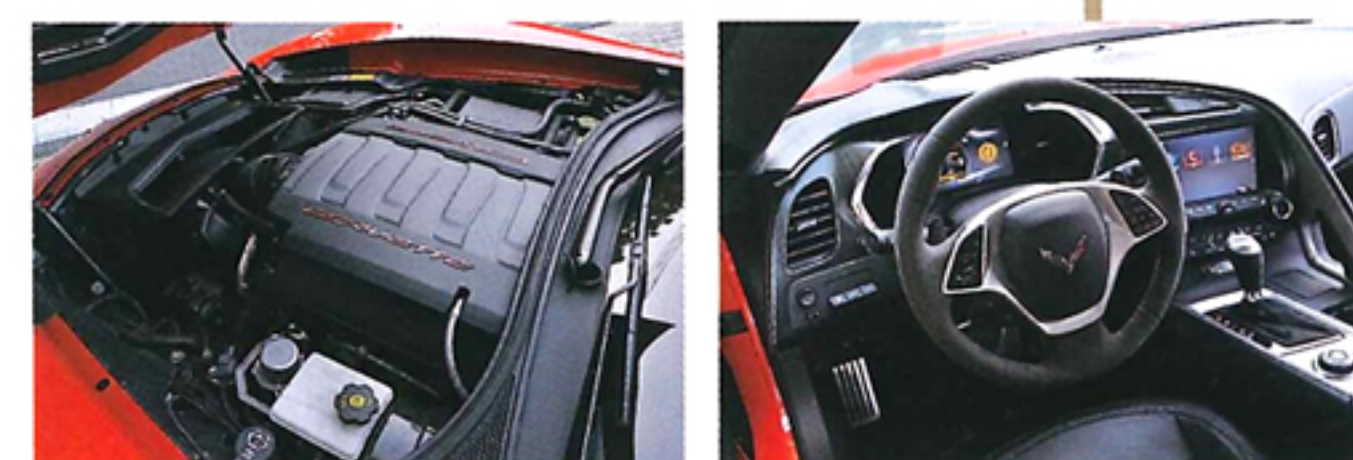
C7コルベットで楽しむ公道ラリー

今回イベント取材にあたり、ゼネラルモーターズジャパンより、新型コルベットをお借りした。ロングツーリングはもちろんのこと、ワインディングを走る気持ち良さも最高の1台だ。

イベント会場ではご覧の通り子供たちに大人気で取り囲まれるほどだった。コルベット程の存在感を持つスポーツカーが増えれば、クルマ好きになる子供はぐっと増えるはず。



2013年のデトロイトショーで発表された7代目シボレー・コルベットは、アメリカが誇るFRスポーツの代名詞ともいえる存在で誕生から60年以上の歴史を持つ。2014年のル・マン24時間レースではこのニューモデルがLM GTE Proカテゴリーで2位に入るなどサーキットでも活躍し続けている。



V8OHVエンジンは最高出力466psを発揮し、0-96km/h加速はFRとしては驚異的な3.8秒を誇る。メーターのセンターに配置される液晶ディスプレイは速度計で、走行モードによってデザインが変更される。C2、C3に使用されていたサブネーム「ステンクレイ」が復活したことに併せて、フロントフェンダーサイドにはステンクレイバッジが付く。